

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要について

横須賀市教育委員会

平成 29 年 4 月 18 日（火）に小学校 6 年生・中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

横須賀市では、本調査について、限られた教科および学年での実施であることやそれぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が学力すべてを表すものではなく、学校教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし、一側面ではあるものの、本調査結果を児童生徒の学習状況や生活状況を把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

I 調査の趣旨

(1) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図り、検証改善のサイクルを確立する。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

*主として「知識」に関する問題（A問題）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

*主として「活用」に関する問題（B問題）

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力

②児童生徒に対する質問紙調査

*学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(3) その他

調査結果については、序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の数値による結果については、市としても各学校としても公表はいたしません。

Ⅱ 横須賀市小学校の結果

1. 教科別平均正答率結果

(%)	国 語		算 数	
	A	B	A	B
横須賀市	70.0	52.0	74.0	41.0
神奈川県	73.0	57.0	77.0	46.0
全 国	74.8	57.5	78.6	45.9

2. 各教科の概要

【小学校 国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 手紙の構成を理解し、後付けを書くこと（A問題²二）
手紙の構成を理解し、後付けに必要な、日付、署名、宛て名を書くことは、良好である。
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること（A問題⁵）
ことわざの意味を理解し、文章の中で適切に用いることは、おおむね良好である。
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えて読むこと（B問題³一）
登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えて読むことは、おおむね良好である。

<課題があるとみられる内容>

- 漢字を正しく書くこと（A問題⁷）
学習した漢字について、文や文章の中で適切に使うことに課題がある。
- 目的や意図に応じて、自分の考えを話すこと（B問題¹三）
目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題がある。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと（B問題²三）
アドバイスを受けて、その中から目的や意図に応じて適切な内容を取り上げて書くことに課題がある。
- 叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること（B問題³三）
物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題がある。

【小学校 算数】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 乗法の性質を用いて、(整数)×(小数)の乗法の計算をすること (A問題 $\boxed{1}$ (3))
乗法の性質を用いて、小数の乗法の計算の仕方を考える力については良好である。
- 資料を二次元表に分類整理すること (A問題 $\boxed{9}$ (1))
資料を集めて二次元表に分類整理する力については良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

- 四則計算の技能に関すること (A問題 $\boxed{2}$ (3))
計算の順序についてのきまりの理解に課題がある。
- 商を分数で表すこと (A問題 $\boxed{2}$ (4))
整数の除法の結果は、分数を用いると一つの数として表すことができることの理解に課題がある。
- 正多角形の性質に関すること (A問題 $\boxed{6}$)
正多角形の性質を見いだしたり、その性質を理解したりすることに課題がある。
- 言葉や式を用いて求め方を説明すること (B問題 $\boxed{2}$ (1))
示された情報の中から条件に合うものを選択したり、筋道を立てて考えて求め方を説明したりする力に課題がある。
- 示された式の中の数の意味を、言葉を用いて説明すること (B問題 $\boxed{4}$ (1))
示された資料や式を正しく読み取り、適切に判断したり、それを表現したりする力に課題がある。

3. 児童質問紙調査（小学校6年生）の結果概要

（1）概要

〔肯定的な回答が90%以上の主な項目〕

- 朝食を毎日食べている
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる
- 家で学校の宿題をしている
- 学校で友達に会うのは楽しい
- 学校で好きな授業がある
- 学校のきまりを守っている
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

〔課題と見られる主な項目〕 ＊全国平均と比較し、大きく差がある項目

- 普段の勉強時間が1時間以上である
- 休日の勉強時間が1時間以上である
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている
- テレビを見たり、ゲームをしたりする時間
- テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている
- 読書が好きである
- 学校図書館や地域の図書館に週に1～3回以上行く
- 新聞を読んでいる
- 今住んでいる地域の行事に参加している

（2）質問紙調査からみられる傾向と課題

【生活習慣】

朝食や睡眠といった基本的な生活習慣については、大きな課題は見られませんでした。一方で、テレビを見たり、ゲームをしたりする時間が長い傾向があり、またそのことについてのルールを決めるという部分についても課題が見られました。

また、読書への関心や読書をする機会、新聞を読む習慣という部分についても、昨年度に引き続き大きく課題がある状況です。

【学習習慣】

昨年度に引き続き、平日・休日とも家庭で勉強する時間が全国と比較しても短い傾向にあります。また、学校で課された宿題はしっかりと取り組めていますが、自分で計画を立てて学習をすすめたり、自主的に予習・復習したりする習慣が確立していないということが課題と捉えられます。

【規範意識等】

友達との約束や学校のきまりを守るという部分については、肯定的回答が高く、規範意識が高いことが明らかとなりました。

Ⅲ 横須賀市中学校の結果

1. 教科別平均正答率結果

(%)	国 語		数 学	
	A	B	A	B
横須賀市	76.0	70.0	62.0	47.0
神奈川県	77.0	72.0	64.0	48.0
全 国	77.4	72.2	64.6	48.1

2. 各教科の概要

【中学校 国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 学習した漢字を正しく読むこと (A問題⁹二)
学習した漢字を文脈に沿って正しく読むことはおおむね良好である。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと (A問題⁹三)
ことわざや慣用句、敬語等について言葉の意味や働きを理解して使うことは、おおむね良好である。
- 必要な情報を集めるための見通しをもつこと (B問題³三)
どのような情報を提示すれば伝えたい事柄が伝わるのか見通しをもって情報を集めることは、良好である。

<課題があるとみられる内容>

- 文脈にあった漢字を正しく書くこと (A問題⁹一)
学習した漢字を文脈に沿って正しく書くことに課題がある。
- 事象や行為などを表す多様な語句を適切に使うこと (A問題⁹五)
事象や行為などを表す多様な語句を、生活の中の様々な場面や状況に応じて適切に使うことに課題がある。
- 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解すること (B問題¹二)
登場人物の描写に注意して読み、話の展開を踏まえて叙述の意味を文脈に即して捉えながら読むことに課題がある。
- 相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すこと (B問題²三)
相手の反応を踏まえながら、場の様子や状況に応じて分かりやすく伝わる内容や表現の仕方を工夫して話すことに課題がある。

【中学校 数学】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 図形の平行移動に関すること（A問題 $\boxed{4}$ （2））

平面図形を、きまりにしたがって平行移動した図形をかく力は良好である。

- 問題場面における考察対象を明確に捉えること（B問題 $\boxed{2}$ （1））

問題場面を理解し、簡単な具体的場合について考える力は良好である。

- 与えられたグラフから、必要な情報を読み取ること（B問題 $\boxed{3}$ （1））

与えられたグラフを読み取り、必要な情報を適切に選択する力は良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

- 文字式の計算とその活用に関すること（A問題 $\boxed{2}$ （4））

等式を目的に応じて変形する力に課題がある。

- 文字式や方程式に関すること（A問題 $\boxed{2}$ （2）、 $\boxed{3}$ （2））

数量の関係や法則等を文字式や等式に表したり、文字式や等式の意味を読み取ったりする力に課題がある。

- 日常事象の数学化と問題解決の方法に関すること（B問題 $\boxed{3}$ （3））

数学的な表現を事象に即して解釈し的確に処理する力に課題がある。

- 「資料の活用」領域に関すること（B問題 $\boxed{5}$ （1）、（2））

度数分布表から必要な情報を読み取る力や、代表値を場面に応じて適切に扱う力に課題がある。

3. 生徒質問紙調査（中学校3年生）の結果概要

（1）概要

〔肯定的な回答が90%以上の主な項目〕

- 朝食を毎日食べている
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる
- 学校で、友達に会うのは楽しい
- 学校の規則を守っている
- 友達との約束を守っている

〔全国と比較して肯定的回答が上回っている主な項目〕

- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている
57.5（全国 50.6）
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う
68.2（全国 64.3）
- 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う 38.1（全国 32.9）

〔課題とみられる主な項目〕 *全国平均と比較し、大きく差がある項目

- 毎日、同じくらいの時間に寝ている
- 携帯電話やスマートフォンを使って通話やメール、インターネットをする時間
- 学校に行くのは楽しい
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている
- 家で学校の授業の復習をしている
- 週に1～3回以上図書館に行っている
- 読書は好きである

（2）質問紙調査からみられる傾向と課題

【生活習慣】

昨年度に引き続き、テレビゲームなどを行う時間や携帯電話、スマートフォンを使う時間が長い傾向にあります。

また、小学校と同様に読書に対する関心や読書する機会については課題が見られました。一方で、全国と比べて外国に対しての関心は高く、地域の特色が子どもたちの生活意識に反映されていると捉えられます。

【学習習慣】

平日や土日の学習時間について、全国と比較して課題がみられるとともに、宿題や予習については取り組まれているものの、自主的に計画を立てて学習をすることや、学習したことを復習するという点については、課題が見られます。

【規範意識】

学校の規則、友達との約束、スマートフォン等の使い方のルールなどの設問に対して肯定的回答の割合が高く、規範意識について高いことがわかります。

IV 全国学力・学習状況調査の調査結果と今後の取組について

小学校においては、昨年度の結果と比較をすると、国語Aについては、全国平均正答率との差が縮まっていますが、その他の教科では、その差が広がっています。

中学校においては、昨年度と同程度であり、全国平均正答率との差がマイナス5ポイント以内であり、ほぼ全国並みと捉えることができます。

また、本年度の中学校3年生が平成26年度6年生の時の調査と比較すると、各教科において、伸びが見られ、中学校の3年間で各教科の力をしっかりとつけることができていると捉えられます。

一方で、本年度の結果では、小中学校ともに、全国平均正答率を上回る教科はなく、未だ課題があり、その課題解決を引き続き図っていく必要があります。

児童生徒質問紙に関する今回の調査結果からは、小学校と中学校で同じ傾向のみられる設問がいくつかありました。

横須賀市の子どもたちは、学校での宿題に対する取組については良好であるものの、授業の復習や自主的な学習を計画的に取り組むということに課題があるということがわかりました。学力向上においては、子どもたちが学習習慣をしっかりと身に付けることが重要です。各学校から課される宿題に取り組むだけではなく、授業の内容をしっかりと理解するために、もう一度家庭学習において振り返るといったことや、自分の学習上の課題を踏まえ、その課題を解決するために計画を立てて学習をするといったことも大切です。そのためには、小学校の段階から学習習慣を定着させ、中学校まで継続していくことがとても重要になります。現在、横須賀市では、家庭学習リーフレットを配布し、その取組方を示しています。家庭学習の充実には、学校と家庭の連携が大切となります。

また、学校の規則を守ること、友達との約束を守ることといった規範意識が全国と比べて高いということも明らかとなりました。横須賀市の児童生徒は携帯電話やスマートフォンの使用率が高いのですが、その使用に対するルールを家庭で設定し、守っていく意識も高いということがわかっています。こうした規範意識の高さは、今後、社会に出てからも重要であり、学校の指導、家庭での教育の成果と捉えることができます。

市内各学校においては、自校の調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしています。全体的な傾向だけではなく、問題レベルまでの分析を行い、自校の児童生徒がどの教科のどの領域に課題があるのかといった詳細な分析を行い、指導改善につなげている実践も見られます。そうした取組によって、昨年度と同集団での経年変化を視点におくと、学力向上の取組の成果が大きく表れている学校もあります。

学習習慣や児童生徒の規範意識といったことは、学校と家庭との連携が重要であることは明らかです。今後もこれまでの取組を継続しつつ、学力向上に向けて多角的な視点を持ち、学校と家庭、教育委員会がしっかりと連携をとり、本年度の学習状況の課題を解決するべく取組を推進していきます。